

部会紹介3:広報・普及作業部会

What : 何をしているの？

Webサイトでの情報共有・発信

会員機関が参加するメーリングリストの管理

会員機関相互の情報・ノウハウ共有の強化と人材育成

各会員機関が、個々の特性や置かれている状況に応じて細やかな情報交換を行い、その構成員に業務上必要な研鑽を積み、人材を育成していくことができるよう、その機会を創出する。

オープンサイエンスに向けた先進的な取組事例の情報収集・共有化をすすめ、各会員機関が応用・活用できるようにする。また、国内外の関連団体との連携・協力をはかることにより、コミュニティを活性化する。

(重点活動項目 (2022-2026年) [ミッション] より)

活動の成果物①

オープンサイエンス関連の基本ドキュメント

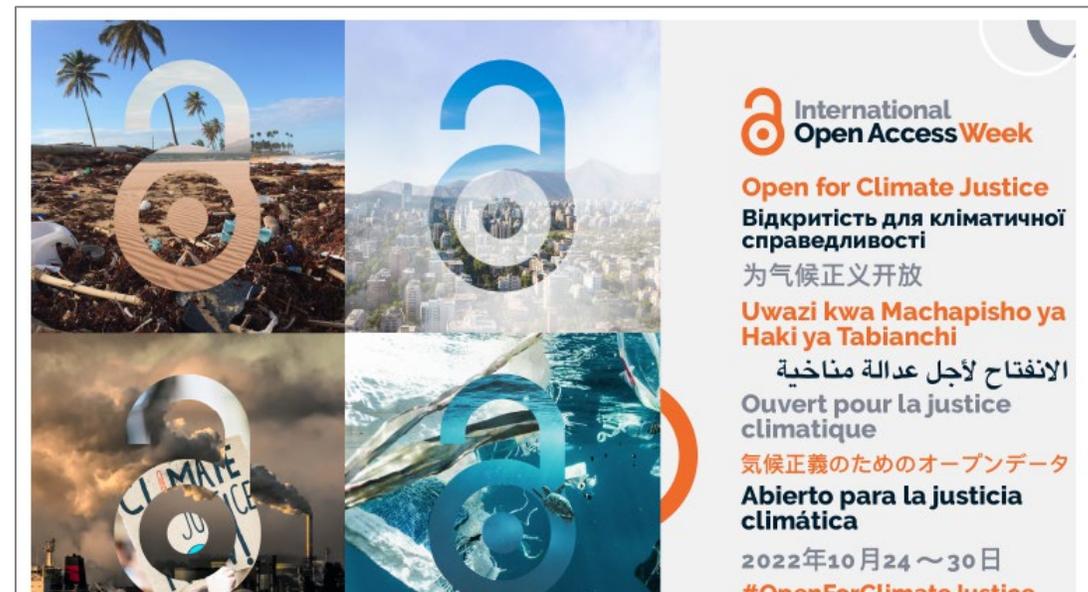
<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/os-resource>

政策文書等
内閣府
科学技術・イノベーション基本計画（科学技術基本計画）
<ul style="list-style-type: none">第5期科学技術基本計画第6期科学技術・イノベーション基本計画
統合イノベーション戦略
<ul style="list-style-type: none">統合イノベーション戦略（イノベーション戦略調整会議、2018.6閣議決定）統合イノベーション戦略2019（イノベーション戦略調整会議、2019.6閣議決定）統合イノベーション戦略2020（総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）、2020.7閣議決定）統合イノベーション戦略2021（総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）、2021.6閣議決定）

全国のリポジトリ担当者に向けた
さまざまな情報発信

オープンアクセスウィーク2022 特設ページ

<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/oaw2022>



オープンアクセスウィークの
広報活動

活動の成果物②

JPCOAR Newsletter: CoCOAR(~2022年度)

<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/page/62>

JPCOAR Newsletter
CoCOAR No. 14
February 2022

発行：オープンアクセスリポジトリ推進協会
jpcoar@nii.ac.jp

＜ IN THIS ISSUE ＞

- ・ イベントレポート：図書館総合展2021 ONLINE plus
- ・ 特集：山池先生に訊く「リアルにつながる」国際連携のお話
- ・ JPCOARオープンアクセスリポジトリ戦略2019～2021年度の振り返り

QRコード

イベントレポート 図書館総合展2021 ONLINE plus

2021年11月19日、JPCOARは第23回図書館総合展2021 ONLINE plusにて、フォーラム「JPCOAR2021：これからのオープンアクセスとJPCOARを考える」を開催しました。昨年に引き続き、オンラインでの開催となり、当日は176名の方にご参加いただきました。当日の資料や動画は、以下をご参照ください。

講演資料：<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/page/152>
講演動画：<https://youtube.com/playlist?list=PL2dRrL5d3sbq1EzP8e-JZ1zuwVrDR8-M>

フォーラム中、多くの方に質問やコメントをいただきましたが、時間の都合上、当日はすべてのご意見をご紹介できませんでした。そこで今回のCoCOARでは、フォーラムに参加された方々へお声をかけて、意見交換の続きを行っていただきました！Google Jamboardというオンライン付箋のツールを使用して、コメントへのご意見をお寄せいただき、それを誌面に再現しています。どうぞご覧ください。

テーマ1

リポトリ業務の担当になったばかりで、JPCOARのメンバーリストに投稿される内容や用途がよく理解できないという意見を寄せられました。

JAIRO Cloudコミュニティの掲示板にも大変お世話になったので、今ならメンバーリストのアップデートを依頼したいするのかもしれない(見やすいとは言えませんが)。

私自身もJPCOARのフォーラム等には可能な限り参加するのが、近道のように感じます。

NIIやJPCOARのフォーラム等には可能な限り参加するのが、近道のように感じます。

リポトリの担当になったばかりの頃は、DRFの出ていないドキュメント類が大半を占めました。今ならJPCOARの研修資料やFAQが参考になるかもしれません。

リポトリ関連のよく知らない内容や用途とくに遭遇することは多いです。やはり知識を得るにはNII、JPCOAR、各大学図書館協会、大学が主催するセミナーやワークショップに参加されるのが一番良いかと思います。最初は難しいと感じるかもしれませんが、参加し続けたらだんだんと理解できるようになってきます。

編集：リポトリ新任担当者の受講の他、過去のJAIRO Cloudの掲示板や、JPCOAR NewsletterのCoCOAR、JPCOARのメンバーリストを参考にさせていただきます。

私もリポトリ関連のよく知らない内容や用途とくに遭遇することは多いです。やはり知識を得るにはNII、JPCOAR、各大学図書館協会、大学が主催するセミナーやワークショップに参加されるのが一番良いかと思います。最初は難しいと感じるかもしれませんが、参加し続けたらだんだんと理解できるようになってきます。

リポトリの担当になったばかりの頃は、DRFの出ていないドキュメント類が大半を占めました。今ならJPCOARの研修資料やFAQが参考になるかもしれません。

リポトリ関連のよく知らない内容や用途とくに遭遇することは多いです。やはり知識を得るにはNII、JPCOAR、各大学図書館協会、大学が主催するセミナーやワークショップに参加されるのが一番良いかと思います。最初は難しいと感じるかもしれませんが、参加し続けたらだんだんと理解できるようになってきます。

JPCOAR Newsletter CoCOAR No. 14 (2022.02)

JPCOAR Newsletter
CoCOAR No. 15
September 2022

発行：オープンアクセスリポジトリ推進協会
jpcoar@nii.ac.jp

＜ IN THIS ISSUE ＞

- ・ 特集：数字で見るJPCOAR
- ・ (連載) オープンアクセス論文紀行
- ・ 各作業部会の活動広報

QRコード

数字で見るJPCOARと日本の機関リポジトリ

81 件
9 冊
1937 件
2.7 km
838 種類

特集 数字で見るJPCOARと日本の機関リポジトリ

JPCOARの会員ってどれくらい？—書きい論文って？日本の機関リポジトリってある？最近よく聞く研究データの登録ってどれくらい進んでいる？ちょっと気になるJPCOARと機関リポジトリに関する数字について、調べてみました！

JPCOARの基本データ編

705 会員
JPCOAR参加会員数
JPCOARには図書館や研究機関等が参加できます。

JPCOAR 001
JPCOAR No. が一番小さい番号
JPCOAR-001は清泉女子大学さまです。

JPCOAR 713
JPCOAR No. が一番大きい番号
JPCOAR-713は九州大谷短期大学さまです。

清泉女子大学さま Comment

リポトリ立ち上げの思い出
当初は、機関リポジトリの右も左も分からず、NIIの新研修に参加して、多くの参加者の励みと情報共有をして、リポトリ構築にあたりました。その後、NII事務局のサポートのおかげで、リポトリを公開することが出来ました。
2013年頃に、本学リポトリを公開したのですが、NII事務局の方から、「公開おめでとうございます。」と書いて頂いたのが、とても思い出に残っております。

JPCOAR Newsletter CoCOAR No. 15 (2022.09)

JPCOAR Newsletter
CoCOAR No. 16
最終号

発行：オープンアクセスリポジトリ推進協会
jpcoar@nii.ac.jp

＜ IN THIS ISSUE ＞

- ・ 在野研究者インタビュー / 連載「開かれる情報発信とコミュニケーション」
- ・ ROADMAPとOAポリシー 認定ガイドの紹介 / イベントレポート
- ・ (Workshop on Digital Library Development) 勝手にコメント
- ・ リー・DAKツツシ / 作業部会の活動広報

QRコード

巻頭特集：荒木優太氏インタビュー

有馬武部

テーマ
開かれながら閉じる：在野研究者として考える情報発信とコミュニケーション

リポトリに投稿した論文は、だんだん、どのように使われているのかわからず、ユーザーの声を聞きたいという思いから、今回は「在野研究者」として、機関に情報発信をされている有馬優太氏にインタビューを行いました。オープンアクセスを目指す、図書館という場、コミュニケーションそしてコミュニティのオープンクローズについて、在野研究者としての経験と専門知識を絡めて中々に面白かったです。

荒木優太
在野研究者として、一度で済ませず大学に戻りに研究活動を行っている人です。私は、日々の研究の傍で使っていて、早稲田に赴き、連絡の行き、年々に開催されています。

私が在野研究者とみなされたきっかけは、2016年にこれからのエリック・ホッファーの出版に「在野研究者の安心と心構え」という副題を出したことです。これら過去の在野研究者たちの生きざまや研究生活を振り返り、今とこれからの在野研究者たちの今後のあり方を探ることで、と書いてきました。読んでくださった方が在野研究者にや

JPCOAR Newsletter CoCOAR No. 16 (2022.03)

CoCOARからウェブマガジンへ

CoCOAR → 2023年度からウェブマガジンに！

★アクセシビリティ

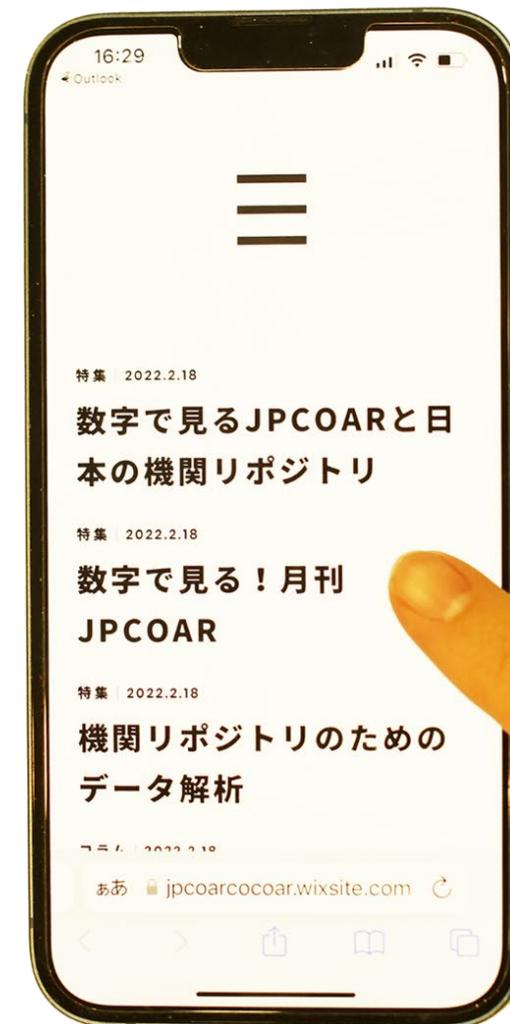
★ユーザビリティ

★ブランディング



情報発信の方法を一新！

読者層の拡大を図ります



メーリングリストの管理

①JPCOAR Community ML

(協会の活動や会員機関相互の情報共有用)

②JPCOAR JAIRO Cloud Community ML

(JAIRO Cloudのユーザーサポート・相互協力用)



<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/page/155>

When : いつ活動しているの？

定例：月に1回のミーティング

随時：Webサイトの更新

メーリングリストのメンバー追加

OA Weekの広報

Webマガジンの企画

メンバー間で分担して担当。

本務の繁忙期には、対応できるメンバーと分担して進められる

Where : どこで活動しているの？

全国の会員機関に所属しながら参加しています！



How : どうやって活動しているの？

プロジェクト管理ツールを使って
情報共有しながら活動を進めています！



Why : なぜこの部会に入ったの？

- ・ 図書館利用者としての経験：リポジトリ掲載された論文が卒論の貴重な情報源だった
- ・ リポジトリ担当ではなかったが、上司からの誘いで参加

広報・普及作業部会の推しポイント

(作業部会員に聞いてみました)

担当内容が庶務・総務・広報のような業務が多く、

「なにか作業部会に入ってみたいけど、リポジトリの知識・経験が薄いから気が引ける……」

というかたにもおすすめできる

広報の企画や情報発信（更新作業）を通して
リポジトリやオープンアクセスなどの情報が
入りやすいため、日々の学びにも繋がる

広報・普及作業部会の推しポイント

(作業部会員に聞いてみました)

顔の見える形で他館とのつながりができました

作業部会に参加する方とのつながりができて、相談や情報共有をしやすくなりました

全国の図書館職員と（単にイベントや研修で名刺交換するよりも）一緒に同じ仕事をすることですごく仲良くなれる。そのネットワークは自機関の業務にも活かせる。

広報・普及作業部会の押しポイント

(作業部会員に聞いてみました)

リポジトリ事業を俯瞰して見るきっかけにもなりました。1人でやっていると目の前の、メタデータの登録とか著作権処理とかしか見えなくなりますが、ウェブでの広報にしても、広報誌での広報にしても、そもそも何のために誰のためにということ意識することが多かったのも、自然とこれまでのリポジトリとかこれからのリポジトリとかについて考えるきっかけになりました。

(自機関の業務では経験しづらい) 全国的に影響を与えるような大きな仕事ができる。

広報・普及作業部会の推しポイント

(作業部会員に聞いてみました)

WEKOに触れられる。他のリポジトリに触れる機会も少ないので、WEKO未使用館にも割とメリットになるのかもと思います。

ミーティングのオンライン開催も参加しやすさの面でメリットでした。